

6-1. 環濠集落部の旧京大農場本館等建物



6-1. 環濠集落部の旧京大農場本館等建物

安満遺跡公園の環濠集落部に旧京都大学農場の事務所棟等の建物がありました。公園の整備理念「史跡安満遺跡と京大農場の歴史・環境資産を生かす」のもと、白壁と赤屋根が印象的な本館など農場建物4棟を保存されました。

関西を中心に活躍した建築家大倉三郎（1900～1983）が母校・京大営繕課に勤務した日、恩師の建築学科教授・武田五一（1872～1938）の指導を得て設計した建物です。現在、国の登録有形文化財（建造物）に登録されています。

旧京都大学農場本館・付属屋・別館・加工室及び農具舎

○本館及び付属屋：昭和5年(1930) 建築木造2階建瓦葺

中央部を2階建てとし、正面にパーゴラ状の庇を付した玄関。2階に縦長アーチ窓を連続して配し、スパニッシュ基調としつつ、柱や桁を露出するハーフティンバーを組み合わせた意匠で、独特の彫刻を施した庇の方丈や曲線を多用した階段など、欧米のさまざまな建築様式を巧みに取り入れた完成度の高い建築です。



南西側から見た 本館



1階西側：旧農場長・教授室
現在：レストラン

1階：東側は、旧事務室 現在：休憩室とギャラリー
1階：西側は、旧農場長室・教授室
現在：レストラン



2階：旧教室
現在：レストラン

※ 本館は、多くの市民が気品のある建物として親しんで来ました。